

東大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C

項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
 - b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。
 - C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
 - a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - * 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- *ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2

日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

- 3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。
- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
 - b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
 - c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものを。
 - d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

- 4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・要素Aと要素Dがイコール関係でつながれていない場合、D要素を1点減点。
- ・要素Bと要素Cの対立、あるいは矛盾が表現されていない場合(たとえば要素Bにしか言及されていない場合)、加点なし。※要素B・Cのみが加点なしで、その他要素は加点対象。
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B C

世界認識は文化ごとに異なるという文化相対主義は、同じ理性をもつはずの人間が、多様な経験的主体でもあるという矛盾を止揚する発想の一つだということ。(71字)

■採点方法・各要素単独採点

■要素A 「世界認識は文化ごとに異なる」という文化相対主義は」…2点

- ・本文の「「自然の事物としては同じものが文化によって異なる仕方では認識され意味づけられる」という文化相対主義の発想」に対応する。ほぼ同等の説明内容と判断できれば加点。
- ・文化相対主義という言葉を出すだけでその内容を説明していない解答、あるいは逆に文化相対主義の内容を述べるだけで、それが「文化相対主義」の説明であることが明示されていない場合は加点なし。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素B 「同じ理性をもつはずの人間が」…2点

- ・本文の「超越的な理性において一なるものであるはずの「人間」」、あるいは「一なるものとして超越論的な人間」といった表現に対応する。
- ・「超越的な理性」「超越論的な人間」といった表現のみで、「一なるもの」、「同じもの」「同一性」といった内容が表現されていない場合は1点。

■要素C 「多様な経験的主体でもある」…2点

- ・本文の「経験的な多様さにおいて見いだされる、とといった「一見して非合理的な」実践」あるいは「極めて多様な経験的主体としての人間」に対応する。ほぼ同等の説明内容であると判断できれば加点。
- ・「多様な」「多様性」といった内容が表現されていない場合は1点。

■要素D 「矛盾を止揚する発想の一つだ」…2点

- ・本文傍線部アの「その主な調停策の一つが」および「両者の対立と調停が図られる場」に対応する。
- ・「対立を調停する発想」「矛盾を受け止めるもの」など、ほぼ同等の説明内容であると判断できれば加点。
- ・「くする発想の一つだ」ではなく「くする発想だ」などの、〈ワンオブゼム〉のニュアンスがない表現の

場合も加点。

・要素Aと要素Dが「AはDだ」あるいは「DがAだ」といったイコール関係になっていない場合、1点。

■要素E 文末表現は「……こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A B

文化を、一つの世界に対する多様な認識のあり方としてではなく、世界を制作していく多様な実践の産物

C

A

D

して捉え直す、現代人類学の展開のこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「(文化を)くとして捉え直す」…1点

- ・本文傍線部イの「転回」の説明にあたる要素。
- ・「文化を」の有無は不問。「捉えなおす」など、「転回」のニュアンスがある場合、加点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は加点なし。

■要素B「一つの世界に対する多様な認識のあり方」…3点

- ・本文の「文化相対主義」を説明している箇所に対応する要素。具体的には「自然の事物としては同じものが文化によって異なる仕方認識され意味づけられる」、「一なる自然と多なる文化」、「現実存在する世界が一方にあり、他方にそれを認識する異なるやり方(世界観)がある」、「文化は単なる世界観の発露」といった内容に重なる表現であれば加点。
- ・要素Bは否定的に表現されていなければならない。肯定的に表現されている場合は加点なし。

■要素C「世界を制作していく多様な実践の産物」…3点

- ・本文の「現地の人々が生きる世界を彼らの視点から捉える」、「彼ら(現地の人々)が生きる世界は現実存在する世界を彼らなりの仕方作り上げていく実践の産物である」、「(文化は)さまざまな仕方世界を制作し認識する実践の産物、文化Ⅱ自然」といった内容に対応する要素。
- ・「世界の捉え方」や「世界観」といった内容に対比される、「世界の在り方」「現実存在する世界」「実践の産物」といった内容であると判断できれば加点。
- ・要素Cは肯定的に表現されていなければならない。否定的に表現されている場合は加点なし。

■要素D「現代人類学の展開」…1点

- ・本文の「二〇世紀末から今世紀初頭にかけての現代人類学の展開」という内容に対応する要素。「人類学の展開」等、ほぼ同等の説明内容であると判断できれば、加点。

■要素E…文末表現は「……こと」という形が原則だが、「……展開。」など、適切な内容の名詞で終わっている場合も許容する。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 世界に存在する同じ事物に対しての見解ではなく、
B 「そもそもこの世界に何が存在するか」について
C の見解を異にする者同士が影響を及ぼし合うこと。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「世界に存在する同じ事物に対しての見解の相違ではなく」…2点

- ・本文の「世界に存在する同じ事物に対する認識の相違ではなく」に基づく説明。ほぼ同等の説明であると判断できれば、広く許容して加点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点とする。

■要素B 「「そもそもこの世界に何が存在するか」について」…3点

- ・本文の「「そもそもこの世界に何が存在するか」に関わる相違」に基づく説明。ほぼ同等の説明内容であると判断できれば加点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。

■要素C 「見解を異にする者同士が影響を及ぼし合うこと」…3点

- ・傍線部ウの「異なる見解をもつ存在者同士の相互作用」に基づく。「対立する見解をもつ」など、ほぼ同等の説明内容であると判断できれば加点。
- ・「相互作用」の言い換えとして、「交流」「関わりあい」といった、「互いに作用を及ぼす」かどうか不明な表現を用いている場合は1点とする。

■要素D…文末表現は「……こと」という形が原則だが、「……関わりあい。」などの適切な名詞で終わっている場合も許容する。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

a 両義

b 絶 ※「断」の字も○1点とする

c 実装

第二問

(一) 文科A・理科A 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 わが子どもに **B2** 思ひまし給へり。

〔解答例〕

A1 私の子供たちよりも **B2** 姫君を大切に思っていらっしやる。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】 わが子どもに 〃 まし ↓ 私の子供たちよりも

※「私の子供たち」は「私の子供・私の子」等でもよしとする。「私」は「自分」でもよしとする。
※「よりも」は、比較の対象を表していれば「より・と比べて」等でもよい。

B【2点】 思ひまし給へり。 ↓ 姫君を大切に思っていらっしやる。

※「大切に思う」＋尊敬「〜ていらっしやる」＋存続「〜ている」で **【2点】**。

※「姫君を」の有無は不問（「姫君」は「対の方・対の君」等でもよい）。

※「大切に思う」は「大事にする・深く想う・愛する・思いがまさっている」等でもよい。
単に「思う」となっている場合は**マイナス【1点】**。

「思う」の意がない場合は、**Bは×**。

※尊敬の訳は「お〜になる・〜なさる」等でもよい。尊敬の意がない場合は**マイナス【1点】**。

※存続の意がない場合は**マイナス【1点】**。ただし、尊敬が「〜ていらっしやる」になっている場合は、存続はそこに入っているものとする。

(二) 文科エ・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 深き山に入り待りて、**B2** さまは変はるとも、

〔解答例〕

A1 深い山に入って、**B2** 出家したとしても、

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】 深き山に入り待りて、 ↓ 深い山に入って、

※丁寧の補助動詞「侍り」の訳「～です・～ます・～ございます」は、**A**か**B**のいずれかにあればよい。

丁寧の訳がない場合、「～なさる・お～になる」など尊敬の訳になっている場合、「お～する・～申し上げる」など謙讓の訳になっている場合は、全体

から**マイナス【1点】**。

※「深い山」は「山奥」などでもよく、「入って」は「入り」でもよい。

B【2点】 さまは変はるとも、 ↓ 出家したとしても、

※「出家する」の意がない場合は**x**。「出家する」の意があれば**【1点】**。

※右の**【1点】**がある上で、「(たとえ)～ても」(逆接仮定)の意があれば**【2点】**。「～だが・～けれども」等、逆接確定の訳は**x**。

(二) 文科キ・理科オ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 人づてならで B1 うけたまはらば、 C1 いか

〔解答例〕

A1 人づてではなく直接 B1 声をお聞きしたら、 C1 どれほど嬉しいことか

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】人づてならで ↓ 人づてではなく直接

※「人づてでなく」の意があればよい。「直接」の有無は不問。

B【1点】うけたまはらば、 ↓ 声をお聞きしたら、

※「お聞きする・うかがう・言葉(返事)をいただく」「聞く」の謙讓表現(+)「ならば」(仮定)

で【1点】。

※「うけたまわる」のままは×。

※「声を・姫君の声を」の有無は不問。

C【1点】いかに ↓ どれほど嬉しいことか

※「どれほど(どんなに)嬉しいか(よいか)」「の意があればよい。

文科(二)・**文科のみ** 傍線部「…」とは誰のどのような気持ちか、説明せよ。【5点】

〔傍線部〕 いかにもして人に笑はれなんことをし出ださせん

〔解答例〕 **A1**北の方の、**B2**姫君を世の笑い物にして、**C2**入内の話をつぶそうという気持ち。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】北の方の、

※B・Cの主体として「北の方」が書かれていればよい。「北の方」は「継母」でもよい。「母親・故母宮・姫君・対の方」は×。

B【2点】姫君を世の笑い物にして、

※「姫君を笑い物にする・姫君に恥をかかせる・姫君の悪い噂を立てる」等の意が読み取ればよい。

C【2点】入内の話をつぶそうという気持ち。

※「入内をつぶす(邪魔する・妨害する)」の意が読み取ればよい。

※右の意がなくて「中納言(父親)に嫌われるようにする」がある場合は**【1点】**。

文科(三)・理科(二) 傍線部「…」とはどういうことか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 **A2** よしなきことを思ひ初めて、**B2** 雲居はるかに聞きなしたてまつらんこと**C1** 口惜しきよ。

〔解答例〕 **A2** 姫君に恋をした末に、**B2** 姫君の入内を聞くこととなり、**C1** 残念だということ。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 [字数] 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 姫君に恋をした末に、

※「姫君に恋をした・姫君を愛した・姫君に思いを寄せた・愛した姫君」等の意があれば**【2点】**。

「恋愛」の対象として「姫君」がない場合は**【1点】**。

※「恋愛」に対する「叶わない・無理な・甲斐のない」等の形容の有無は不問。

B【2点】 姫君の入内を聞くこととなり、

※「姫君の入内を聞き・姫君の入内を知り」の意があれば**【2点】**。

「姫君の」は**A**で「姫君」が言われていれなくてもよい。

ただし、「入内を聞き(知り)」の意はあるが、解答全体を通して「姫君」がない場合は**【1点】**。

※「入内」は「帝に嫁ぐ」等でもよい。結婚の意がない「参内する・宮中へ行く」等では×。

C【1点】 残念だということ。

※「残念・遺憾」の意があればよい。

文科(四)・**文科のみ** 傍線部「…」とはどういうことか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 **A2**世のつつまじさにのみおぼゆれば、**B2**かやうにおはするに、**C1**心苦し

〔解答例〕 **B2**少将が訪れることが、**A2**世間にはばかられて、**C1**つらうつらうつらと。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】世間にはばかられて、

※「世間にはばかられる」の意があれば**【2点】**。「世間に」がない場合は**【1点】**。

※「世のつつまじさ」のままは**x**。

※「世間」は「周囲・世の中」でもよい。「周囲の人々」の意ととれない。「この世・現世」等は**x**。

※「はばかられ」は「遠慮され・目が気になり・恥ずかしく」等でもよい。

B【2点】少将が訪れることが、

※「少将が訪れることが・少将の訪問・少将が来る」ことが「の意があればよい」。

※「少将」という主体がない「訪問が・当来が」等となっている場合は**【1点】**。

C【1点】→ つらうつらと。

※「つらいつらいつら・苦しい・困惑する・迷惑に思う」等の意があればよい。

「悲しい・寂しい・申し訳ない・できない・気の毒だ・かわいそうだ」等、「心苦しい」のままは**x**。

文科(五)・理科(三) 傍線部の和歌の大意をわかりやすく説明せよ。 【6点】

〔傍線部の和歌〕 A3 かひもなき我が身と思へば B3 鶴の子の雲の上にも思ひ立たれず

〔解答例〕 A3 自分は大した者でもないの、 B3 入内しようという気にもなれない。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 「字数」 指定なし。

〔ポイント〕

A【3点】かひもなき我が身と思へば ↓ 自分は大した者でもないの、

※「自分は大した者(人間)ではない・自分には価値がない・自分は入内するほどの者ではない」等の意が読み取れればよい。

※右の意がなく「どうにもならない自分・どうしようもない自分」等がある場合は【2点】。

B【3点】鶴の子の雲の上にも思ひ立たれず ↓ 入内しようという気にもなれない。

※「入内する気はない・入内したくない・入内は考えていない・入内できない」等の意があれば【3点】。

※「入内」は「帝に嫁ぐ」等でもよい。

※Aで「入内」を言っている場合は、「宮中は気にかけていない・宮中に行くつもりはない」等でもよい。

※A・Bに「入内」がない場合は、「宮中は気にかけていない・宮中に行くつもりはない」等は【1点】。

第三問

(一) a 2点

a 1点

b 1点

私のために、縁談を整えてくれ、

※読み方は、「予が為に縁を作(な)し」

a, 「予が為に」の部分の解釈……1点

「私のために」「自分のために」は○

※「予」のままにしているものは×—1点

※「ために」の解釈を間違えているものも×—1点

b, 「縁を作し」の部分の解釈……1点

「縁談をととのえてくれ(て)」「縁をとりもって(くれて)」「仲をとりもって(くれて)」「

間に入って(くれて)」「仲人になって(くれて)」「縁を結び」などは○

※「縁談をして(くれて)」「縁をつくり」などは×—1点

※bは、下へ続く形になっていないものは×—1点

(一) b 2点

a 1点

b 1点

おおむね

内容を理解していた。

※読み方は、「頗(すこぶ)る其の意を識(し)る」

a, 「頗る」の解釈……1点

「おおむね」「まずまず」「たいそう」「とてもよく」「かなり」「やや」「少しく」「いずれでも」

※「すこぶる」のままでも○

※bの「理解」の位置が「ちゃんと理解していた」「精通していた」などになっていれば、

aの1点も○

b, 「其の意を識る」の解釈……1点

「内容を理解していた」「その意を理解していた」「その詩の意味もわかっていた」

「その意味を知っていた」など○

※bは言い切っている。下へ続く形にしているものは×―1点

(一) c 2点

a 1点

b 1点

やぶ医者に

誤診されて

※読み方は、「庸医の誤る所と為り」

a, 「庸医」の解釈……1点

「やぶ医者」「凡庸な医者」「平凡な医者」「愚かな医者」「だめな医者」など○

※「庸医」のままは×―1点

b, 「誤る所と為り」の解釈……1点

※受身が欠けているものは×―1点

「誤診されて」「誤った診察(診療)をされて」「見立てをまちがえられて」

「診断を違えられて」など○

「(くが)誤診して」「(くが)まちがって」「誤るところとなって」など×―1点

※bは下へ続く形になっていないものは×―1点

(一) 8点

a 2点

b 3点

姫人の声は、今まで一度も

c 3点

b

管弦の音色が私の耳を楽しませる のに及ばないことがなかった。

(8点)

a, 主語が補われていること……2点

「姫人の声は」「姫人の歌声は」「姫人のゆったりとした歌声は」「妻の歌声は」「朱氏の歌は」など○

※文頭になくてもよいが、補いのないものは×―2点

b, 「未だ嘗て〜如かずんばあらざるなり」の解釈……3点

※「今まで一度も〜に及ばないことはなかった」が直訳

※「今まで一度も」は「今まで」「二度も」片方だけでも可。

※「今まで一度も」は、「いつも」「つねに」でもよい。

※「〜に及ばないことはなかった」は、「〜に(比べて)劣るものではなかった」とか、「〜にもまさっていた」「〜よりもすばらしいものであった」などでもよい。

c, 「竹を吹き糸を弾ずるの耳を悦ばしむる」の解釈……3点

「管弦の音色が」(c①)……1点

「私の耳を」(c②)……1点

「楽しませる」(c③)……1点

c①「管弦(絃)の音色が」「管弦が」「音楽が」「楽器の音が」など○

※「管楽器を吹き、弦楽器をひいて」は×―1点

c②「私の耳を」のように、「私の」を補っていないものは×―1点

※逆に「私を」のように、「耳」はなくても可。

c③「楽しませる」「よろこばせる」のような使役表現がないものは×―1点

「幸せにする」のようであれば可。

※現代語訳問題であるから、文末を「〜ということ」のようにしているものは1点減点。

(三) 6点

a 2点

b 4点

c

美しかった妻が、二度と再びもとの姿には戻らないこと。(6点)

a, 「蛾眉」の要素……2点

※ 「美しかった」要素……1点

「妻」のことであること……1点。

※ 「美しかった妻（姫人・朱氏）が」「美しかった亡き妻は」など○

※ 「妻は」「姫人は」「亡くなった妻は」「美しかった人は」など△―1点

※ 「美人は」「故人は」「亡くなった人は」は×―2点

b, 「復た全（まった）からず」の要素……4点

※ 「二度と（再び）もとの姿には戻らない」「二度と（再び）生き返らない」「決してもとには戻らない」「もう戻ってほこない」など○

※ 「二度と完全な姿には戻らない」は△―2点

※ 「死んでしまった」も△―2点

c, 「〜こと」「〜ということ」の有無は不問。

(四) 文科のみ 10点

a 2点

b 2点

妻とむつまじく暮らした幸せな月日 を思うと、

c 3点

d 3点

e

腸がちぎれるような悲しみ に堪えられない という心情。

(10点)

a, 「華年」の内容……2点

※「むつまじく暮らした幸せな月日」は(注)がある。

※「妻と」「姫人と」「朱氏と」などが補ってないものは△―1点

b, 「数ふる」の要素……2点

※「思うと」「思い出すと」「思い返すと」など○

※「指折り数えてみると」のようでもよいが、ただの「数えると」は×―2点
ただし、「〴〵の思い出を数えると」なら○

c, 「腸断」の要素……3点

※「はらわたがちぎれるような」「はらわたを断つ(断たれる)ような」など「腸断」の
字義……1点

※「悲しみ」「非常な悲しさ」「悲痛」……2点。

d, 「那ぞ堪へん」の要素……3点

※「堪えられない」「堪えがたい」など○

※「忘れられない」「思い出してしまう」「なつかしい」などは×―3点

e, 文末表現は不問。

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

何を述べたかではなく、誰がそれを述べたかによって、その言説の受け取り方を大きく変えてしまう人心の

B

何とも言えない複雑さを 不思議に思う気持ち。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A「何を述べたかではなく誰がそれを述べたかによってその言説の受け取り方を大きく変えてしまう人心の何とも言えない複雑さを」…3点

- ・本文2段落の〈無名の人の意見には見向きもしないが、偉い人の意見は、それがさして意味のない意見であつても拝聴する世間の人の気持ちの微妙さ〉といった内容に基づく要素。
- ・曖昧な表現、不正確な表現の場合、1点。

■要素B「不思議に思う気持ち」…2点

- ・傍線部Aにあらわれた「私」の心情を説明する要素。「疑問に思う気持ち」、「困惑する気持ち」、「不満に思う心情」など、〈なぜ人の心というものはこうなんだろう…〉といった心情を説明する表現であれば広く許容。

- ・曖昧な表現、不正確な表現の場合、1点。

- ・文末は「……心情。」、「……気持ち。」など、問いに対する答えとなっていればよい。「……と思つている。」、「……と感じている。」なども許容して加点。明らかに不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 小説を芸術と考へ、芸術的雰囲気醸成に努めること、印象の正確な描写を目指す
B 小説創作本来のあり
C 方から離れてしまうと思うから。

- 採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「小説を芸術と考へ、芸術的雰囲気醸成に努めること」…1点

・本文4段落の「芸術的雰囲気などといういい加減なもの」、「小説においては、決して芸術的雰囲気をねらっては、いけません」、「雰囲気醸成を企図する事は、やはり自瀆であります」といった表現に基づく要素。

・説明が曖昧であると判断される場合や不正確な表現の場合は加点なし。

- 要素B 「印象の正確な描写を目指す」…2点

・小説創作の本義を説明する表現。本文4段落の「創作において最も当然に努めなければならぬ事は、〈正確を期する事〉であります」および「ただ実直に、印象の性格を期する事一つに努力してみて下さい」といった内容に基づく表現であれば加点。

・「自分の印象を正確に描写する」などの表現も可。

・単に「正確を期する事」と述べるだけなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「小説創作本来のあり方から離れてしまうと思う」…2点

・傍線部直後の「小説を芸術と考へようとしたところに、小説の墮落が胚胎していた」に基づく要素。同等の表現であれば加点。

・説明が曖昧であると判断される場合は加点なし。

- 要素D 「から。」…明らかに不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「無法松の一生」が、過去の傑作を模倣したような新鮮味のない つまらない映画であったために、
B かくの阪妻の熱演が台無しになっていたから。 C 新鮮味のない つまらない映画であったために、
D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「無法松の一生は、つまらない映画」…1点

- ・本文5段落の「「無法松の一生」はたいへんつまらなかった」に対応する要素。「無法松の一生」がつまらない映画であったという内容が述べられていれば加点する。
- ・「つまらない」という表現がなくても、要素Bか要素Cの内容があれば加点する。
- ・解答例のように最後が「…だったために、」と原因を表す表現になっていなくても良い。
- ・「その映画は」など、具体的に映画名を挙げていない場合は加点なし。

■要素B 「過去の傑作を模倣したような」…1点

- ・「傑作意識に囚われた」「昔の傑作をお手本にして作った」「芸術的な」装飾に腐心した」等、ほぼ同等の説明内容であると判断できれば加点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は加点なし。

■要素C 「新鮮味のない」…1点

- ・「古い」「新しさのない」「進歩のない」等の同等の表現であれば加点。

■要素D 「せっかくの阪妻の熱演が台無しになっていた」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「から。」…明らかに不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点5点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「重慶から来た男」は、表現したい現実を愚直に追求しており、芸術的たらんとするような余計な邪念が一切ない。新鮮な映画であったということ。
A B C

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A 「重慶から来た男」は、新鮮な映画であった…1点
- ・傍線部エの「あの映画には」「新しさがあつた」に対応する表現。
- ・「あの映画」等、説明が曖昧であると判断される場合は加点数なし。
- ・「新しさがあつた」に対応する表現がない場合は加点数なし。

- 要素B 「表現したい現実を愚直に追及しており」…2点
- ・傍線部エの「いままでの日本の映画に無かつた」の内実を説明する表現。
- ・本文5段落の「表現したい現実をムキになって追いかけている」という表現をそのまま用いている場合は1点とする（やや比喩的な表現のため）。

- 要素C 「芸術的たらんとするような余計な邪念が一切ない」…2点
- ・傍線部エの「清潔な」のニュアンスを説明する表現。
- ・本文5段落の「傑作だの何だのそんな事、まるで忘れて走り回っている」、あるいは、4段落の「芸術的雰囲気などといういい加減なものに目を細めているから、ろくな映画が出来ない」などの表現に基づく。
- ・「清潔な」||「余計なこと、よこしまなことを一切考えていない」というニュアンスが十分に表現されていない場合、1点とする。

■要素D…文末表現は「……こと」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。